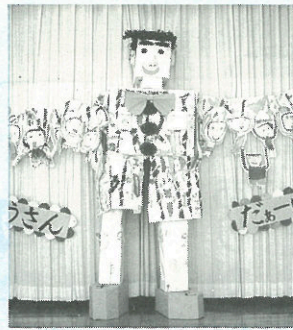




くまさんチーム



ねずみさんチーム



おとうさんだあ〜いすき



## ふるさとへ

37

横田 真理さん  
(大阪府在住)



### 私の故郷日置

私が就職の為に日置町を離れて早いもので十七年がたちました。日置町で過ごした年月に追いつこうとしています。この間に結婚し、九才と七才の娘の母となりました。今は年二回、帰省しています。帰って来たなあど実感する時は、両親をはじめ家族の元気な顔を見た時、おいしい水を飲んだ時、それから満天の星空を見た時です。大阪にいてはこうはいきませんから。年月と共に私の生活にも変化があったように、日置町も少しずつ変わってきたと思うことがあります。まず、中学校が新校舎に建て替えられたこと。初めて見た時は、あまりのりっぱさにびっくりし、在校生の皆さんがとてもうらやましく思えましたが、反面、

中学校の木造校舎の廊下のきしむ音や、小学校のグラウンドにドーンと居座ったとどんぐりの樹がとて懐かしく思えました。他にも、総合グラウンドができた、遠足で行った千畳敷もとてもステキな場所になったりと。町民の皆さんが楽しめる町になってきたように感じています。子供の頃は四季を通じて外で遊び回っていました。春はれんげ畑で花冠を作ったり、野苺を摘んで食べたり、夏は川で水遊び、秋は栗拾いや柿の木に登って実を取ったり、冬は雪が降るとソリ遊びと、とても健康的でいつも自然を身近に感じていました。娘たちは、虫や草花にとても興味があつて、おじいちゃんの家に行つてカブト虫をつかまえて

## 日置俳壇

〈兼題 花火〉

爆音に夜空を飾る花火かな  
尾方ヒサ子  
大輪の菊が重なる揚花火  
松岡ヨシ子  
あつと言う間の美惜しまれ散る花火  
秋枝タキ子  
大花火開き拍手の日置楽園  
高尾 凡果  
花火師の影も見えぬにドンと鳴る  
西村亥子代  
手花火の胸に開きぬ父の顔  
国司ハル子  
いそいそと花火見に行く子の笑顔  
塩瀬 米江  
花火揚げ光芒一閃海揺らす  
富田佳津美

〈雑詠〉

青柿や去年のまゝにある梯子  
西村亥子代  
風鈴や老て一日の勤め終ゆ  
袖花 岩門  
朝虹や旅のみやげが一つ増え  
高尾 凡果  
終戦は遠くとなりし墓みが  
塩瀬 米江  
梅雨晴間コバルトの空雲疾しく  
池永 君江  
父の忌の姉妹なごりの夏の宿  
白石 敏江  
狭庭の石灯籠や苔の花  
秋枝タキ子  
家守る一人住いの梅雨構え  
尾方ヒサ子

す。  
日置町の益々のご発展と町民の皆様のご健康を願いつつペンを置くこととします。

### 筆者紹介

昭和38年生まれ。長行出身。旧姓山本。家族は、夫と長女と次女の四人暮らし。